

(4) 指示銘板の取付け

指示銘板の上下寸法の位置決めは合わせ作業で行ないます。
(横寸法はそれぞれの寸法図を参照願います)「ON」「OFF」
操作し、そのときのハンドル位置に合わせて取付け願います。

<3.取 扱 い>

(1) 扉の開閉

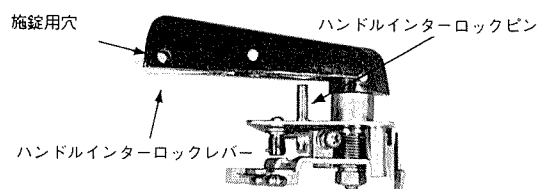
扉を閉めるときは、外部操作ハンドルをしゃ断器のハンドル位置に合わせながら閉めて下さい。

外部操作ハンドルは全器種扉を開けたとき、バネの力で「ON」の位置に戻るようになってます。しゃ断器「OFF」または「TRIP」の状態では、外部操作装置を、それぞれの位置に保持しながら扉を閉めて下さい。外部操作装置と、しゃ断器のハンドルの位置を合わせずに、勢いよく扉を閉めると、しゃ断器のハンドルを折損することがありますので、ご注意願います。

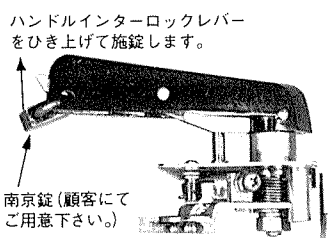
(2) ハンドルインターロック

しゃ断器の不必要な操作を防ぐためのもので「ON」「OFF」の位置で施錠できる構造になっています。「ON」「OFF」それぞれの位置でインターロック用レバーを引き上げ、施錠用穴に南京錠をかけます。

南京錠は顧客においてご用意願います。



(イ) インターロックをしていない場合

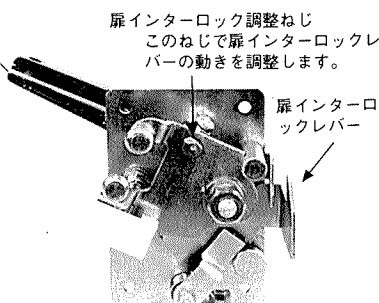


(ロ) インターロックをした場合

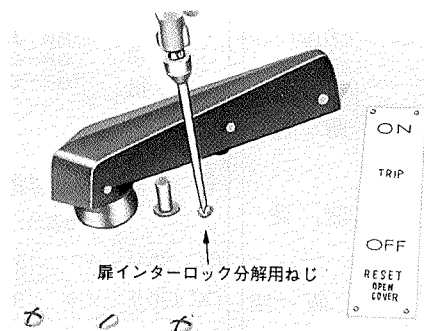
(3) 扉インターロック

扉インターロックは「OFF」の位置では扉が開かず、「OPEN COVER」で開くよう調整します。

まず、調整ねじをいっぱいねじ込み、「OFF」操作して扉が開くかどうかしらべます。扉が開けられるようでしたら、調整ねじを戻し、「OFF」で扉が開けられないようにします。



このとき、調整ねじを戻し過ぎると、「OPEN COVER」にしても扉が開けられなくなりますので、調整ねじは少しずつ戻して調整して下さい。もしこの様になった場合、扉インターロック分解用ねじをはずし、止軸を盤内に押し出して下さい。扉インターロックがきかなくなりますので、扉を開けることができます。



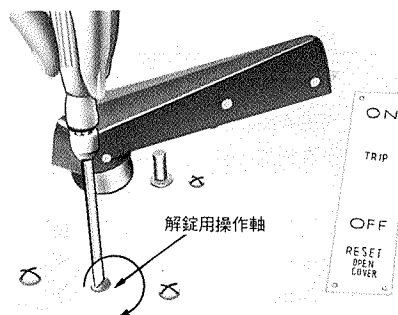
また、扉インターロック解錠装置がつかない外部操作装置で、「ON」の位置で扉を開けたい場合も、この方法により扉を開けて下さい。

(4) 扉インターロック解錠装置

扉インターロック付で、しゃ断器「ON」のまま扉を開けたい場合に使用します。

解錠用操作軸をドライバーで時計方向にまわせば、扉インターロックが解けて、扉は開けられる状態になります。

この装置の付いた裏面取付形は盤面に穴があきますので、体裁が悪い場合は、メクラ蓋をご使用下さい。



扉インターロック解錠装置